

私が考える未来への責任

▽失って気付かされた思い

東日本大震災直後から、私は建設業者としてがれき撤去に携わりました。「がれき」とは、本来、地域の皆さま一人ひとりの大切な財産だったものです。がれき撤去を進める中で皆さんの財産を片付けたからこそ、地域のこれからを考えなければいけないと思いました。

そんな時、参加した震災関連フォーラムで「未来責任」という言葉に衝撃を受けました。それまで上手く伝えることが出来なかった思いを、たった4文字で端的に表す言葉と出会ったからです。色々な議論の場に参加するのですが、これから暮らす町を考える場に若い人が参加しないことに、驚きと焦りを感じていました。多くを失い、無力さと今を生きる有難みを感じたからこそ、地域の未来を若い世代が真剣に考える場が必要だと考えました。

▽勇気を持って声を上げる

立場を気にせず、少しでも釜石の未来を良くしたいと想う人たちと、平成24年5月「NEXT KAMAISHI」を設立しました。どんなプランを描いても、復興交付金など行政の予算頼みでは決定権は自分達にありません。最終的には自分達が責任を取れる範囲で、一杯チャレンジしていくことに決めました。

震災から2年目の釜石は「バラバラ」でした。大切な人を失い癒えることのない哀しみ、浸水区域と非浸水区域での人の心のすれ違い、仮設住宅での孤独。全部ひっくるめてひとつになつて前に進みたい。ひとつになる為に何をすれば良いか考えた結果が、「釜石よいさ」の復活でした。

▽ひとつになつて前に進むために

「釜石よいさ」とは、震災前24回行われた



株式会社青紀土木
(釜石市)
代表取締役専務
青木 健一
(Kamaishiコンパス
実行委員長)

釜石夏の風物詩です。元気が無くなった地域に活気を創りたいと、釜石レポリユーションという団体が昭和62年に開催した祭りです。その代表に話すと「復活させたいのなら若い君達の手でチャレンジして欲しい」と言われ、急きよ私達を中心となって実行委員会を設立しました。ノウハウも資金も無い、全くのシロウトだけで本当に復活出来るのか、不安だらけのスタートでした。

毎夜皆が集まり準備しました。被災した企業の皆様からは、「若い奴らが頑張っているのだから」「こんな時だからこそ元気が欲しい」と逆に励まされ、協賛金は震災前以上に集まりました。まだ整備されていない道路上で開催は警備など沢山の人手が必要でしたが、前日の準備から大学生を始め全国各地、沢山の方々がボランティアとして駆け付けてくれました。

こうして釜石よいさは平成25年9月、2年ぶりに復活しました。幼稚園児がとびつきの笑顔で踊る「子供よいさ」がオープニングを飾り、「よいさ小町」を先頭に参加団体が



震災後、復活した「第25回釜石よいさ」のオープニングを飾った「子供よいさ」



多くの人が集まり「のつけ井」を味わう「かまいし橋の上の朝市」

は色々な物を繋ぐ場所です。「朝市」は、当時を懐かしむ年配の方、震災以降自らの住む町に関心を持った若者が橋の上集って新たな賑わいを創りたいと考えたものです。年に2度ほど開催しています。好みの海産物をチョイスして自

震災によって気づかされた未来責任。本来、地域の誰もが自らの住む町で果たすべきものだと考えます。若い世代が重くとらえず、気軽に明るくチャレンジ出来る環境を積極的につくるのが、地域の活性化に導く、私達の未来責任だと思えます。

釜石よいさと並行して、平成25年8月から「東北未来創造イニシアティブ 未来創造塾」という実践型人材育成道場で半年間学ぶ幸運

▽真のリーダーシップとは

隊列をなして元気に踊りました。夜になり、まだ街灯ひとつ無かった市内中心部を工事用投光機が照らし、「やっぱり町に灯りがあるっいいね」と涙する老夫婦の姿は忘れられない光景でした。以来、毎年継続し、震災前より規模は小さいかもしれませんが、様々なフェーズで釜石に携わった人たちが年に一度、全国から集い釜石の状況を確認し、仲間と再会出来る日として、新たな付加価値を加えることが出来ました。

に恵まれました。「リーダーが育ち、未来を拓く場」として、ファイナンスや戦略、マーケティングのスペシャリストと事業構想を練り、沢山の指摘による気づきと、考え抜くことを学び、徹底的に自己と向き合い、「リーダーシップとは、他人ではなく自分をリードすること」。この言葉は私の心の大きな支えとなっています。

釜石よいさ復活、という小さな成功は「俺たちがやらなくては」と前向きな勘違いを生み、「釜石からの手紙」プロジェクト、奥尻視察、釜石百人会議、そして平成28年10月には「かまいし橋の上の朝市」を開催することが出来ました。

かつての橋上市場は釜石最盛期の象徴でもあり、当時世界に2カ所しか存在しませんでした。したが、老朽化により解体されました。橋と

分だけの「のつけ井」を味わって頂きたいと思えます。

▽後から続く者のために…

今、力を入れているのが、地域の高校生が将来の可能性を学び、自分の意志で行動するチカラを伸ばしたい！と取り組んでいる「Kamishikonパス」です。

講師を務めて下さる「本気の朝礼」で知られる大嶋啓介さんの、「大人が変われば子供も変わる、子供が変われば未来も変わる」という言葉に、深い感銘を受けました。これを自らの地域に置き換えて考えてみると、「市民（の誰か）が変わろうとすれば、より多くの市民が変わり、多くの市民が変われば地域の未来さえも変えるチカラになるのではないか」と考えています。

震災という悲しい出来事でご縁で、釜石に係わって下さる方々は、本当に沢山います。震災を契機に地域の繋がりを深め、少しでも未来を明るくしたいと願う私達の想いが、子供達の未来を創る手助けとなり、やがてその子供達が次の地域を創っていく!!